

NEWSLETTER

No.67

9 May 2017

・教員の研究室と電話番号・メールアドレス	1
・2017年度教員在室時間表	2
・活躍する卒業生（7）	3

【教員の研究室と電話番号・メールアドレス】

※地理・環境専攻専任教員は全員世田谷キャンパス(世田谷・梅ヶ丘校舎)にいます

	研究室の場所	研究室電話番号	電子メールアドレス
長谷川	世田谷校舎 10 号館 2F1003 研究室	03-5481-5247	hasegawa@kokushikan.ac.jp
岡 島	世田谷校舎 10 号館 2F1002 研究室	03-5481-3245	okajima@kokushikan.ac.jp
宮 地	世田谷校舎 10 号館 2F1001 研究室	03-5481-5278	tmiyachi@kokushikan.ac.jp
内 田	世田谷校舎 10 号館 4F1025 研究室	03-5481-5291	uchida@kokushikan.ac.jp
磯 谷	梅ヶ丘校舎 34 号館 8F 824 研究室	03-5451-8154	isogai@kokushikan.ac.jp
加 藤	梅ヶ丘校舎 34 号館 9F 904 研究室	03-5451-8164	k2kato@kokushikan.ac.jp

※教員が大学に在学予定の時間等は、次ページの教員在室時間表を参照してください。オフィスアワーは、基本的に先生が研究室にて、学生の質問等に答える時間です。

※オフィスアワー以外の面会・相談なども在室中に短い時間で済む用事であれば、大抵の先生は急用がない限りは応えてくれます。ただし、基本的には相談や面接等は、事前にアポイントメント (Appointment ; アポ) をとってからするようにしてください。オフィスアワーであっても、出張等で不在の場合や、他の相談者などがいるため時間が割けない場合もありますので、事前にアポを取る方がお互いに好都合です。大学生としての自覚をもった行動を心掛けましょう。

※したがって、教員の自宅、特に非常勤講師の先生宅への電話は、先生からの指示がない限りは控えてください。

※メールを活用しましょう。多くの先生が電話よりもメールでのアポの方が好都合です。ただし、教員のメールアドレスは携帯電話のものではありませんので、すぐ返信がくるとは限りません。余裕をもった連絡を心掛けてください。アポの際には、メールの標題に、学籍番号・氏名を明記してください。先生によっては、標題に番号・名前がないとメールを消してしまう場合があります (迷惑メール・ウィルスメール対策のため)。用件が必ずしも標題になくても大丈夫です。「こんにちは」といった標題のメールは即刻消される場合があるので注意してください。

【2017年度 教員在室時間表】

凡 例：

講義中
 オフィスアワー
 在室の場合が多い

※春のみ：春期のみ講義。 ※秋のみ：秋期のみ講義。

※金曜日は文学部関係の会議が集中する日です。会議のある先生は大学にいますが、ほとんど会えない場合もありますので、注意してください。第3または第4金曜日には**教室会議（12：00～）・教授会（13：30～）**があり、教員全員が会議に出るので、その日の午後はほぼ会うことができません。教授会の日程は年間予定表を参照してください。

曜日	時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
	時間	9:30-10:30	10:45-12:15		12:55-14:25	14:40-16:10	16:25-17:55	18:10-19:40
月	長谷川	-----	-----		-----	-----	-----	
	岡島		-----		-----	-----	-----	
	磯谷		-----		-----	-----	-----	-----
	加藤	春のみ	-----		-----	-----	-----	
火	長谷川	-----	-----		-----	-----	秋のみ	-----
	内田	春のみ	-----		-----	秋のみ	-----	-----
	岡島		-----		-----	-----	春のみ	-----
	磯谷		町田校舎		-----	-----	秋のみ	-----
	加藤	-----	-----		-----	秋のみ	春のみ	-----
	宮地	-----	-----		-----	春のみ	-----	-----
水	長谷川	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	岡島	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	磯谷	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	加藤	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	宮地	-----	-----		-----	-----	-----	-----
木	長谷川	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	内田	春のみ	-----		-----	秋のみ	-----	-----
	磯谷	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	加藤	-----	-----		-----	-----	-----	-----
金	長谷川	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	内田	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	岡島	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	磯谷	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	加藤	-----	-----		-----	-----	-----	-----
	宮地	-----	-----		-----	-----	-----	-----

②「カザフ騎馬鷹狩文化の民族鳥類学」：人類による狩猟の歴史は農耕や工業よりもずっと長く、弓矢はおよそ5万年前、投槍器は約2.2万年前から使用されていたと考えられています。そうした数万年におよぶ狩猟史のなかで、およそ2500年前に猛禽類に獲物を取らせる「鷹狩」の技法が現れました。これは長い人類の狩猟行為のなかでも、ある意味で革命的な発明であったと言えるでしょう。モンゴル西部の少数民族アルタイ系カザフ人には、この鷹狩の伝統がいまに存続しています。イヌワシ *Aquila chrysaetos* のメスのみを馴化し、騎馬で出猟するカザフの鷹使い“イーグルハンター”は、世界のどんな場所の鷹狩とも異なった方法と文化的文脈を持っています（図3～4）。この調査は2006年9月の渡航を機に、すでに11年間を費やしています。冬季には-40℃を下回る山岳地帯で出猟に同行したり、イヌワシの体尺測定で引っかかれて血まみれになったり、命を削って得たデータともいえます（※2017年秋には『鷹使い（イーグルハンター）の民族誌：モンゴル西部騎馬鷹狩文化の民族鳥類学』がナカニシヤ出版より出版されます）。



図3（上）アルタイ系カザフ人の鷹使いの長老（2006年9月）

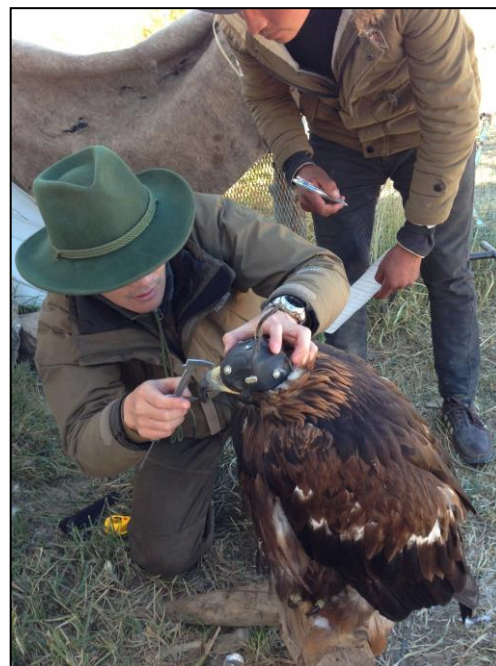


図4（右）イヌワシ体尺測定中の筆者（2015年9月）

③「ユキヒョウの民俗学」：この数年間でもっとも力を入れている研究は、中央ユーラシアに棲息する大型ネコ科動物ユキヒョウ *Pantera uncia* の生態と、それを取り巻く地域の人々に伝わる逸話・伝承・狩猟体験・エコナラティブなどの民俗オーラルヒストリーの収集です。ユキヒョウは保護動物として1970年代から続く長い保護の歴史があります。しかしユキヒョウを取り巻く人々が語り継いできた分厚い文化的積層には、ほとんど目が向けられていませんでした。2016年7月からの調査により、例えばかつてはユキヒョウの肉が72種類の病気に効能があったという伝承や、ユキヒョウ狩りで殺した際に、たたりを避けるために執り行われた「ユキヒョウ送り儀」、ユキヒョウを狩る銃猟・罠猟のオーラルヒストリーなど、貴重なフォークロアが収集されつつあります（図5）。現在はこのユキヒョウの研究を、映像や絵画などの視覚メディアとして発信するために、動物カメラマン、日本画家、映像作家とも共同しています。学問をより多くの人々に届けるための敷衍性を高めるため、挑戦的な試みを実践しています。



図5（右）トラップカメラにより撮影したユキヒョウ

